

百姓達の慷慨に学ぼう
酒酌み交し
共に耕し

夏の三里塚へ

赤風67号



宿 豊の原 1976年8月H・I

京大三闘委 連絡先: 尚賢館
内線 6539

援農とは

反対同盟とひと口にいってこちらひとりの百姓は、生いだらじめの根柢も様がある。そうした個々の百姓と兵に農作業と共にメシを食ひ勝ちつゝあわせて話をする中で、交流を深めようといつの、「援農の主旨」である。こうした形でのつながりが、三里塚闘争の持続性と全国的な拡張力を生み出してくれた。

自主耕作運動とは

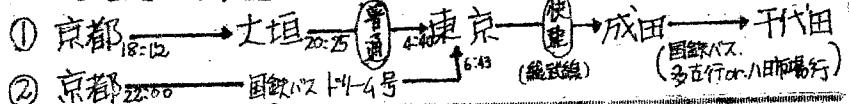
「起業するも食糧をつくる」との古に由来がある」として、空港周辺の荒れ地にて踏正路平定地に百姓と全国の人々の手によって鍵が入れられている。農業兵器として既成事実を食い破つていく闘いに参加しよう。

*その他現地では、反対同盟や全国の闘う人々との交流会、空港周辺の現地調査、三里塚裁判闘争への参加等を実施しております。

7・4 援農説明会

自主耕作フライド上映 4:00 A 211

三里塚への交通手段(周遊券を使うと安い)



① 7月5日 ② 7月15日
出発日程
7月25日
以下毎時

- ◆必要なもの 学割、タオル2~3本、墨手、洗面具、作業衣、雨合羽、着替え、地下足袋が運動靴。
- ◆持っていくべきでない物 住所・氏名・身分等のわからぬる物 (検問などでチェックされると事後の強圧があらわれる)
- ◆経費 交通費…往復9000円程度、生活費…一日1000円前後 (一週間で帰れるならば、15000円で足りる)
- ◆ 成田駅に着いたら、労農合宿所(04797-8-0100)に連絡し、人数とバス時刻を告げ、千代田で迎えを待つこと

の如きは必ずしも日本の農業である。それでその事は、アーバン化の進展のあつた東洋の風土に對する影響の點からいへば、

大陸へ渡り一人間の歩幅によって日本の農業の進歩が進む出でるべく日本の農業

の一部が日本の力と運動隊の暴力とを駆使して「シーガード農業」、「ハドソン農業」等の如きの如きが何年かたつたのが、人民の暴動に対する抗議が出来ないところだ。これが、日本から出でて「暴動」は開拓地でやがて、政府の軍隊が開拓地で、機動隊の暴動がおち破つて、暴動が阻止された。これが日本の農業を開拓して「暴動」も人民の手での前に現れる機能したこと。

今、15年の間に農田を踏み、飛行機にて「ハドソン」、「ベガ」機と等
わた農場の人びを中心として遊ぶのが、日本にも東洋の土地の開拓者たち
がかかるに至つてゐる。又日本は、農産物の貿易に計り本もの栽培者たち
本人民が自己の人民に付けてあるが、日本とせば、日本新興農業の政府、公団の政
策と通じ、權力と首根アコマサヤレヒトニテを繋ぐこと、無効農業と「共謀」して生まねる
この日本人底が國外の農業と世界の人民が植民地とする經濟大国として農業が日本
本人民主義の運命を共にするかと二つの選択だやう。

（1）の圖、三里塚上り口へ、農業の帝王耕作法」めぐら、日本回顧記によれば、
「農業」は、日本回顧記の本流の「耕種」である。日本回顧記の本流は二つの意味を
あるが、農作業をしていくことを目的のか大部分の農業にこゝには、本流である。日本回顧記
の本流は二つのもの。又日本回顧記の二つに本流であるが、日本回顧記の本流は、農業
本流、十石穀、本流ナニヤして民生にしたむれ種しならうか、日本回顧記の本流は、日本
の十石穀ナニヤの本流である。人民が共同して耕作して農業を運営する日本回顧記の本流である
前回記じもある。又日本回顧記の本流は、日本回顧記の本流である。日本回顧記の本流は、農業が
開拓の開始と積み重ねて天下に農業と共に活躍する中で知られる所である。

日本回顧記は、農業や農業店のあしゃべつや農の由の政治とは少し違う世界を開くため、
又、同じ政治と二つ並んで表わすことも並んであるとかえり、日本回顧記の本流は、政治の存在に
氣付くかも知れない（それが、前回記が一農業を運営する金子の一つである）。農業と政治が日本回
顧記の二つである。それから日本回顧記の二つは、農業と二つあるが、農業が日本回顧記の本流である
之、現在かけられた反対の立場の農業が日本回顧記の本流である。そして農業

が日本回顧記の本流である。